

きらめき通信 vol.81

2024年7月（隔月発行）

～性差医学入門講義 学生の感想（抜粋）～

- ・性別、より広く捉えれば個人によっても、罹りやすい病気や治療方法が異なることが当たり前理解され、1人ひとりがより適した医療行為を受け、健康に過ごすことができる環境になればよいと思った。
- ・ジェンダー平等を尊重しつつも、現実に存在する男女の生物学的な差異も考慮する必要があると思った。
- ・性差医療は総合医学であり、臓器別医学ではない臓器横断的医学となる。
- ・性差医療を実現することは全人的な医療を行うことにつながる。
- ・性差医療の概念を知っておくことで、疾患やその治療法などへの理解度がかなり変わってくるように感じた。
- ・命のために必要な治療を行い、患者のメンタルをケアし普通の生活に戻ることができるよう、その後の問題にも寄り添うことが大切だと思った。
- ・病気により体に自信のない女性のための製品などをお伝えし、日常生活の幸福度が上がるような支援をしていけたらと思った。
- ・成長後の精神的な悩みなどの問題について、患者やその家族にきちんと説明し、寄り添ったアフターケアをする責任が医師にはあると思う。
- ・病院内の他の子どもや時には病院外の子どもと関わることで、様々な人がいるということを知ってあげたい。
- ・患者さんが身近に感じてくれるような医師になることを意識し、患者さんの悩みや気持ちを小さなことでも話しやすい環境をつくってきたい。

令和6年度きらめき講演会を開催します

今年度講演会は九州大学馬出地区4部局合同男女共同参画FDと合同で開催します。

講師として、医師でありながら長年行政に携わっておられる福岡市副市長 荒瀬 泰子先生をお招きします。

日時：令和6年9月11日(水) 18:00～19:00

会場：病院キャンパス アイソ薬局九大南店 2階大会議室

対象：九州大学 教職員・医療従事者・学生



九州大学病院 臨床教育研修センター
きらめきプロジェクト

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1

TEL・FAX：092-642-5203

E-mail：kirameki@jimu.kyushu-u.ac.jp

URL：https://www.kiramekipj.kyushu-u.ac.jp/



性差医学入門講義を行いました

～きらめきプロジェクトでは、プロジェクトの活動の一つとして、医学部・歯学部の学生に対し、医療人としてのプロフェッション教育を行っています～

●性差医学入門講義（医学部2年生対象）

7月2日（火）4時限目

講師：九州大学病院乳腺外科 診療教授

久保 真 先生



久保 真 先生

7月11日（木）3時限目

講師：九州大学大学院医学研究院保健学部門 講師

きらめきプロジェクト副プログラム責任者

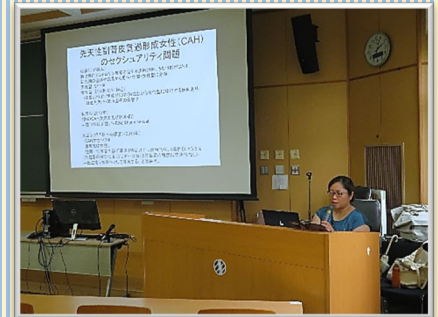
宮田 潤子 先生



宮田 潤子 先生

それぞれの講義で、久保先生はがんと遺伝医療の観点から具体的なデータ等を示しながらお話しされ、宮田先生は小児期の病気による性の問題をいくつかの症例を交えながらお話しされました。

今回の講義で、学生たちは病気による性の問題や、性差と病気との関係を学び、性差・性差医療の必要性和重要性について自分なりに考えるよい機会となりました。





日々頑張っている、きらめきプロジェクト所属のドクターを紹介します



卒後15年目の皮膚科医です。

家族構成は夫（医師）と2歳の娘、3歳のビーグル犬の3人＋1匹家族です。

産後、親族のサポートがほぼ0での仕事復帰に不安を覚え、きらめきプロジェクトに昨年度よりお世話になっております。勤務は週に2回、大学での外来業務を行っています。新患外来を担当させて頂いていることもあり、一般病院ではなかなか経験できない症例を経験できたり、カンファレンスで他の先生方が経験された症例と一緒に検討することができ、非常に有意義な時間となっています。

復帰してすぐは、1歳前だった娘が体調を崩すことも多く、月の半分ほどしか保育園に通えなかったこともあり大変でしたが、最近では体調を崩すことも少なくなり、楽しく保育園に通ってくれているので、安心して仕事ができます。主人も大学勤務で忙しい中、なるべく家族との時間を作ってくれ、感謝しています。

きらめきプロジェクトのおかげで、仕事も家庭のこともある程度余裕のある状態で臨めることができ、とてもありがたいと感じています。きらめきプロジェクトのスタッフの皆様、医局の先生方のご支援に深く感謝いたします。

「健康で楽しく」をモットーに、これからも自己研鑽に励み、貢献できるよう頑張りたいと思います。



卒後15年目の歯科医師です。他大学病院に勤務する救急医の夫と3歳2歳の娘の4人家族です。

卒後大学院へ進学し、その後大学病院勤務、市中病院へ出向しましたが、結婚を機に2019年から休職し、2児を出産しました。子ども達がまだ幼く手がかかるうえ夫は多忙、両親は遠方で頼れず、コロナの影響もあり、しばらくの間は復職を諦めておりましたが、きらめきプロジェクトに所属している医局同期から話を聞き私も本プロジェクトで復職させていただきたいと思い、長女の幼稚園の預かり保育が可能となった2023年10月より参加させていただくことになりました。

昨年度の半年間は週1回、2024年4月からは週2回に勤務日を増やし、九州大学病院の外来で勤務しております。外来では抜歯、顎骨嚢胞、顎関節症、炎症、粘膜疾患、顎骨壊死等の診療と周術期の診療を行っています。私の勤務日は、長女は幼稚園の延長保育を、次女は昨年度は大学病院敷地内の保育園の一時預かりを利用しておりましたが、今年度は定員オーバーで預けられなくなってしまったため自宅周辺の一時的預かり施設を利用しております。「ママ行かないで」と泣くこともあります。仲の良い友達ができたりして社会性が育まれ、プラスに感じられる面もあります。

私自身は勤務日が増え体調を崩してしまいましたが、周囲の仲間や先輩方のサポートで勤務を維持できています。私にとって、復職はハードルの高いものでしたが、きらめきプロジェクトに参加することで、復職の機会を与えていただいたことを大変ありがたく思います。

